

二〇二五年度

適性検査型入学試験Ⅰ

注 意

- 1 問題は 1 のみで、1 ページにわたって印刷してあります。
- 2 試験時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい。**
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受験番号と氏名**を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

受 験	番 号
氏 名	

中村中学校

問題は次のページからです。

1 次の文章1と文章2を読んで、あとの問題に答え

なさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

(*印のついている言葉には、本文のあとに「注」があります。)

文章1

わずらわしい人間関係から自由になりたいから、「一人になってもかまわない」と思うことが必要なのです。

けれど、つい、「一人はみじめ」と思ってしまうがちです。

「一人は淋^{さび}しい」とも思ってしまう。

どうしてでしょう？

「……どうしてって、一人は淋しいでしょう」とあなたは言うでしょうか？

ここまで来たら、すぐにはそう思わなくなってきたはず

です。
一人で、ゆっくりと、自然の中で、いろんなことを考えるのも楽しそうだなと、だんだんとあなたは思ってきたはず

です。
けれど、やっぱり、「一人は淋しい」と思ってしまうが

10

5

ちです。

どうしてでしょう？

僕は、子供の頃^{こころ}に歌った、あの歌がけっこう大きな原因

になっていて思っています。
「1年生になったくらい、友達^{ともだち}100人できるかな」で

す。
声を大にして言いますが、友達は100人できません。

それはムチャです(笑)。大人でも、100人友達がいる人なんていません。100人のうち、多くは友達ではなくて

知人です。本当に100人の友達を作ろうとしたら、人間

関係に忙殺^{ばうさつ}されます。

まして、充分^{じゅうぶん}な交通費も飲食代も用意できない小学1年生に100人の友達を作るとは、断言しますが、不可能です。

まったくムチャなのに、幼い子供達は大きな声で歌っています。歌って、刷^すり込まれるのです。

この歌の一番の問題は「友達が多いことは無条件でよいこと。友達が一人もないことは、無条件で悪いこと」という価値観をわずか5、6歳^{さい}の子供に刷り込んでいることです。

30

25

20

15

ね。自分がちゃんとあるんだよ。個人が確立してるのよね」
たしかに、耳の痛い話かもしれませんが。

75

僕達は、なかなか、集団の中で、嫌いやと言えません。自分が、カレーを食いたいと思っても、みんなが、ラーメンで盛り上がったら、一人だけ「じゃあ、私はカレー食べ

80

てくるから。あとで会おう」とは言えないのです。
どうしてでしょう？

日本人が弱いからでしょうか？

僕はそうは思えません。

理由を言う前に、ちよつと別な話をします。

人から言われて、嫌な感じのする会話のひとつに、

85

「あんた、最近、評判悪いよ」

と言われて、思わず、むつとして、

「誰だれがそんなこと言ってるの？」

と聞き返せば、相手は、

「みんな、言ってるよ」

90

と答えるというものがあります。

「みんな、言ってるよ」

頭で考えれば、みんな言っているはずはないのです。

みんなとは全員のことです。クラスでこの会話があった

としたら、クラス全員35人があなたの悪口を言っていること
になります。

95

そんなことはまずありません。多くの人が言っているも、
「みんな」では絶対にはずです。

職場で「みんな、言ってるよ」と言われても、同僚全
員でないことははっきりしています。同僚が一致団結して、
あなたの悪口を言うなんてことはありえません。だって、
無関心な人だっているはずです。

100

もし、一致団結して悪口を言っているとしたら、もつと
早い時期に、会社として大問題になっているはずだ。

あなたに、そんなに簡単に「みんな、言ってるよ」と軽

105

く言うような事態ではないはずだ。

ですから、「最近、評判悪いよ」と言われてムツとして、

「みんな、言ってるよ」とダメ押しおされても、みんなであ

るはずがないと、頭では分かるのです。

興奮していれば、「本当か？ 本当にみんななのか？

110

一人一人、今から聞いていくぞ！」と叫さけんでしまうぐらい、
信用できない言葉なのです。

なのに、なのに僕達は、「みんな、言ってるよ」と言わ
れると、なんだか嫌な気持ちになってダメージを受けるの

です。

そんなこと、ありえないと思いながら、それでも、「みんな、言ってるよ」という言葉に傷つくのです。

じつは、この言葉に傷つくのは、とても日本的な現象だと僕は思っています。

《 中略 》

日本人が、神様に対していい加減だということは、日本人みんなが知っています。はつもうで初詣で神社に行つて、結婚式けっこんしきを教会でして、葬式そうしきをお寺でする、なんていうことを日本人自身が笑います。日本人は、宗教に対して、じつにいい加減にいろんなものを吸収するのです。

だから、日本人は、神を持たないと言います。本当でしょうか？

キリスト教徒にとつての神、とはどんなものでしょう。キリスト教もユダヤ教もイスラム教も、一神教です。つまりひとつの神を信仰しんこうするのです。

一神教は、どの宗教でも、神との契約けいやくを重んじます。信仰するのはたったひとつの神で、他の神を信じようとした

115

りすると、激しい神罰しんばつが下ります。一度、神を裏切ったら、そこまです。二度と神は、守ってはくれません。ただひとつの神を信じるからこそ、神は、信じる者を守ってくれるのです。

『モーゼの十戒』じっかいでは、一番目に、「お前は私以外に神があつてはならぬ」と言われるのです。

一神教の神とは、それぐらい厳密で厳しいものなのです。日本人は、そういう神を持つていないでしょうか？

僕は、日本にも似ているなあと思うものがあります。

それは、『世間』です。

世間体、世間様、なんて呼ばれたりします。難しい言い方をすれば、『共同体社会』です。

日本では、神様をいろいろと変えても神様は怒りいかませんが、世間に逆らったり、世間を騒さわがせたり、世間から後ろ指を指されたりすると、とても生きづらくなります。

その代わり、世間に逆らわない限り、世間は僕達を守ってくれます。

もつと昔、江戸時代えどを調べると、世間はもつと分かりやすくなくなります。

村落共同体社会、という難しい言い方のものがあります

120

140

125

145

130

150

た。

簡単に言えば、ひとつの村です。

『村八分』という嫌な言葉を知っていますか？

村の掟^{おきて}に逆らった人には、『火事』と『葬式』の時しか

村の人は協力しないという意味です。『火事』と『葬式』が二分、残りの八分は無視して、口もきかないということです。

けれど、それにも理由がありました。

農作業は共同作業です。お米を作る時、一番大切な水は、共同作業でないと成立しません。自分だけが、水を独^{どく}占^{せん}したら、他のお米は作れなくなります。水路を村に引き、水の流れを作り、安定して水を確保するためには、村はひとつにならないといけなかったのです。

この時の村の掟は、まさに、西洋の神と同じぐらい、強く、怖^{こわ}く、圧倒^{あつとうてき}的だったのです。

僕達日本人は、共同体が神だったのです。

村の掟に逆らわない限り、村は僕達を守ってくれました。けれど、一度でも村の掟を破れば、もう二度と村は受け入れてくれなかったのです。

村の掟を守っている限り、生きる道を村は教えてくれま

155

す。

* 黒澤明監督の映画『七人の侍』^{さむらい}は見ましたか？ 村

人は、一致団結して、村を守ろうとするのです。村で議論して、長老に話を聞いて、村人一人一人に生きる道を教えるのです。

《 中略 》

そして、明治時代になって、この村落共同体は、だんだんと壊^{こわ}れていきました。この本は、政治社会の本ではないので、簡単に書きますが、明治政府は国家を強くするために、強すぎる村落共同体を弱くする必要があったのです。神は、世間ではなく天皇だと、設定したのです。

そして、今、僕達日本人は、壊れかけた共同体の社会に生きています。

完全に壊れれば、個人主義の世界になりますが、完全に壊れませんでした。

といって、完全に残っているわけではありません。僕達^{ごういん}を強引^{しば}に縛る村落共同体はもうありません。でも、完全になくなつたわけではないのです。

170

165

160

190

185

180

175

中途半端に壊れているのです。

195

だから、「(あんたの悪口を) みんな、言ってるよ」と言われると、頭ではおかしいと思いながら、それでも半分、ダメージを受けるのです。

完全に壊れていれば、欧米のように「みんな? エブリバディー」ってことか? 頭おかしいんじゃないか?」となります。

200

完全に残ってまだ共同体が機能していれば、「みんな、言ってるって!? だめだ、もうだめだ! それは、共同体の決定なのか!」と絶望的な気持ちになります。

でも、そのどちらでもないのです。完全に無力でも、完全に全能でもないのです。

205

僕達が、「世間」と聞いた時に感じる息苦しさは、この中途半端に壊れたことが原因なのです。

完全に壊れなかったのは、個人主義になるための神を持たなかったからです。天皇は、完全な一神教の神にならなかったのです。

210

バラバラになった個人を支える強力な神を持たなかったからこそ、共同体は中途半端に残ったのです。

そう思えば、最初の話、「ラーメン」「ラーメン」と続く

と、「カレー」と言えない日本人と、堂々と「カレー」と言える欧米人の理由が分かってくると思います。

215

欧米人、つまり一神教の人達にとって、問題は内なる神なのです。神との対話だけが問題なのです。周りの人がなると言おうと、神に「カレーを食べていいですか?」と問いかけ、「汝自身であれ」と言われれば、「カレー」と仲間たちに簡単に言えるのです。

220

けれど、日本人は、世間が神様ですから、「ラーメン」と神様に言われたら、「ラーメン」と答えるしかないのです。

225

と言って、この神様は、中途半端に壊れた神様なので、完全に服従するということに抵抗があるのです。だから、日本人は、心の中で、「本当はカレーって言いたいんだよなあ」と苦しむのです。

共同体が完璧なら、「ラーメン」は共同体の決定なので、文句を言う発想がそもそももないのです。

230

この「中途半端に壊れた共同体」という意識は、日本人の心の隅々まで行き渡っています。中学・高校・大学のクラブ活動では、共同体がすべてと思いながら、内心、「なんかおかしくないか」とみんな思っています。

ただ、中途半端で居続けるのは苦しいので、この苦しみ

235

から抜け出そうと決めた人達は、「先輩は絶対」と思い込もうとするか、「ただ年上っただけで偉そうにすんじゃないよ、バーカ」という言葉でやめていくのです。

(鴻上尚史『孤独と不安のレッスン』大和書房)

〔注〕

＊黒澤明……一九一〇～一九九八 映画監督。

文章2

小学校に上がるころ、ほとんどの人が聞いたり歌ったりした記憶があると思いますが、「一年生になつたら」という歌があります。「一年生になつたら、友だち百人できるかな」という歌詞なのですが、あれっけつこう強烈なメッセージですよ。小学校の一年生になつたら、友だちを百人作りたい、あるいは百人友だちを作ることが望ましいのだという、暗にプレッシャーを感じた人も多いのではないのでしょうか。

学校というのは、とにかく「みんな仲良く」で、「いつも心が触れ合つて、みんなで一つだ」という、まさにここで私は「幻想」という言葉を使つてみたいのですが、「一年生になつたら」という歌に象徴されるような「友だち幻想」というものが強調される場所のような気がします。けれど私たちはそろそろ、そうした発想から解放されなければならぬと思つているのです。

私が言いたいことは、「㊦子どもたちが誰でも友だちになれて、誰でも仲良くなれる」ということを前提としたクラス運営・学校経営は、やはり考え直したほうがいいのではないのでしょうかということです。

私は教育大学に勤めていますので、仕事柄、小中学校の校長先生や先生方とお話しをする機会も多いのですが、非常に人格がすぐれていたり、リーダーシップもある先生、教育現場で力を発揮していると定評のある先生ですら、というよりもだから、そこかもしれません、やはり「子どもたちというのはみんな良い子たちだから、教師がサポートさえすれば、みんな一緒に仲良くできるはず」という前提で頑張っているようなのです。

どの学校でも、やはり「いじめゼロ」を目指しています。そのためのプランを伺うと、「それにはみんなで一つになって」とか、「人格教育に力を入れて、心豊かな子どもたちを育てたい」「みんなで心を通い合わせるような、そんな豊かなクラスを作っていきたいと思っています」「と熱く語られます。でも、私はちよつとひねくれた人間ですから、「それは理想だろうし、努力目標として高く掲げるのはまあいいのかもしれないけれども、そういうスローガンだけでは、逆に子供たちを追いつめることにならないかな」と、どうしても思ってしまうのです。

「○○ちゃん、そんな一人でいないで、みんなの輪に入りなさい」という言葉にかえって圧力のようなものを感じる

20

25

30

35

子供や、みんなと一緒になれないということに気を配るあまり「僕はダメなんじゃないか」と思う子どもも少なくありません。また理屈を超えて「こいつとはどうしても合わない」というクラスメートだっているはず。大人になつてからは、みんな誰もがそういう体験をしているはずなのに、「子どもの世界はおとなの世界とは違う。子どものころはどんな子どうしでも仲良く一緒にになれるはず」というのは、子どもの世界にあまりにも透明で無垢なイメージを持ちすぎなのではないでしょうか。

学校文化を振り返って考えると、これまではやはり「同質的共同性」という側面にしか目が向けられてこなさすぎたのではないかと思います。

「クラスはみんな仲良く」という考え方には、昔はたしかに現実的な根拠があったのです。

なぜなら、小学校はだいたいムラに一つだったからです。

「自然村」といわれる農村社会学の概念があります。行政村と対比される概念で、だいたい室町時代から江戸時代までの間に人びとが自然に集まってできた集落のことですが、明治時代になってこの自然村を基盤に小学校が建ってくるわけです。そうすると、そこは代々家族ぐるみで顔見

40

45

50

55

知りの子供たちが集まることになります。お互い親同士も
顔見知りで、場合によっては何代も前から、「あの家はこ
うで、こつちの家はああで」と知っていて、「あの家から
今度は次男坊じなんぼうが入ってきた」というような、学校を支える
地域ぐるみでの濃密のうみつな関係がはじめからできていたの
です。 65

そういう中で学校やクラスの運営がされていたわけで、
近隣きんりんネットワークのあり方が今とは全然違うわけです。昔
の濃密な近隣の支えがあつてはじめて、「クラスみんなが
仲良くなれるかな」という状態だったのです。

むろん、昔のそういう時代だつて、じつさいはクラス全
員が仲良くなるというのは難しかったとは思いますが、でも、
今に比べれば、ムラの共同的生活を核かくにした地域の支え
がとても強かった。村中が総出で田植えや稲刈りいねかを共同で
行つたり、道路が傷めば道普請いだみちづしんをし、共有林の下刈りなど
の共同作業もありました。そうした地域の支えという現実
的根拠があるからこそ、学校における共同性は実現してい
たわけです。 75

しかしとりわけ一九八〇年代以降は、都市部ばかりでは
なく地方においてもそういう支えがほとんどなくなつてき

ていて、地域自体が単なる偶然ぐうぜんにその場に住んでいる人た
ちの集合体になっています。同じ地域から学校に通つて来
ていると言っても、先生方は今でもついつい「クラスは運
命共同体だ」というような発想になりがちなのだけれども、
子どもたちは単なる偶然的な関係の集まりだとしか感じて
いない場合が多いのです。 80

こうした状況じょうきようの中で、クラスで本当に「こいつは信頼しんらい
できるな」とか、「この子」といえると楽しいな」という、気
の合う仲間とか親友というものと出会えるということがあ
れば、それはじつは、すぐラッキーなことなのです。そ
ういう友だちを作つたり出会えたりすることは当然なので
はなくて、「とてもラッキーなこと」だと思つていたほう
が良いことは多いような気がします。 85

そういう偶然の関係の集合体の中では、当然のことです
が、気の合わない人間、あまり自分が好ましいと思わない
人間とも出会います。そんな時に、そういう人たちとも
「並存へいそん」「共在」できることが大切なのです。 90

そのためには、「気に入らない相手とも、お互い傷つけ
あわない形で、ともに時間と空間をとりあえず共有できる
作法」を身につける以外にないのです。大人は意識的に「傷

つけあわず共在することがまず大事なんだよ」と子どもたち
に教えるべきです。そこを子どもたちに教育していか
ないと、先生方のこれからのクラス運営はますます難しくな
ると思います。「みんな仲良く」という理念も確かに必要
かもしれませんが、「気の合わない人と並存する」作法を
教えることこそ、今の現実^{そく}に即して新たに求められている
教育だということです。

105

（菅野仁^{かんのひとし}『友だち幻想』筑摩書房）

〔注〕

* 無垢……潔白で純真なこと。

* 道普請……道路の新設や修繕^{しゅうぜん}などの工事。

〔問題1〕

文章1・文章2では童謡^{どうよう}『一年生になったら』
にある「ともだちひやくにんできるかな」とい
う歌詞にある価値観に対し、ともに反対の立場
を取っています。文章2で「同質的共同性」と
まとめられる価値観を、文章1ではどのように
表現していますか。解答らんに合うように十五
字以上二十字以内で記しなさい。

〔問題2〕

文章2で㊦「子どもたちが誰でも友だちになれ
て、誰でも仲良くなれる」ということを前提と
するのは、「考え直したほうがいい」と筆者が
考えるのはなぜですか。筆者の主張を文章2の
内容に沿って六十字以上七十字以内でまとめな
さい。

〔問題3〕 文章1・文章2では、「気の合わないひとがい

るときにどうするか」に対する筆者の結論が異なります。その違いを説明した上で、あなた自身の意見を具体的なエピソードをまじえて四百字以上四百四十字以内で書きなさい。ただし、次の条件と〔きまり〕にしたがうこと。

条件 次の三段落構成にすること

① 第一段落では2つの文の考え方の違いを「文章1では」。それに対し「文章2では」というふうに書く。

② 第二段落で、あなたはどちらの意見に賛成できるかを理由とともに明確に述べる。その際に、具体的な体験なども書く。

③ 第三段落の中には、まとめの一言を書く。

〔きまり〕

○ 題名は書きません。

○ 最初の行から書き始めます。

○ 各段落の最初の字は一字下げて書きます。

○ 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。会話を入れる場合は行をかえてはいけません。

○、や。や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の文字と同じように書きます。（まずめの下に書いてもかまいません）

○。と」が続く場合には、同じまずめに書いてもかまいません。この場合、「」で一字と数えます。

○ 段落をかえたときの残りのまずめは、字数として数えます。

○ 最後の段落の残りのまずめは、字数として数えません。

以下、余白です。